

主な検査の説明

検査項目	検査の説明	疑われる病気や異常	
BMI	肥満や、やせを判定するための体格指数でBMI=22が標準体重です。	肥満 やせ	
腹囲	おへそ周りを測定しています。血圧、血糖値、脂質と合わせてメタリックシンドロームの判定に用います。	メタリックシンドローム 肥満	
血圧	高くなると動脈硬化になる危険性があり、脳卒中や心臓病などの重大な病気の原因になります。運動や精神的緊張、過労などでも高くなります。	高血圧症 動脈硬化 腎疾患	
尿検査	蛋白	腎臓に障害があると陽性になりますが、発熱時や過激な運動、過労などでも陽性になることがあります。	腎炎 ネフローゼ症候群 尿路感染症
	糖	糖尿病などで血糖値が高値になると陽性になります。	糖尿病 腎性糖尿
	潜血	腎臓、尿管、膀胱、尿道、前立腺などに異常があると陽性になります。女性の場合、生理中は尿中に血液が混じりやすいため陽性となることがあります。	膀胱炎 結石 腎炎
	ウロビリノーゲン	肝臓や胆のうの異常がわかります。	肝疾患 黄疸 溶血性貧血
	PH	通常は弱酸性でPH6.0前後ですが、食べ物や運動などの生活習慣によって大きく変動します。	尿路感染 発熱 脱水 腎炎 痛風
	ケトン体	脂肪が分解されエネルギーとして利用される時の最終産物で、これが尿中に排泄され陽性になります。	過激なダイエット 糖尿病 甲状腺機能亢進症
	尿沈査	尿中の固形成分(赤血球、白血球、細胞、細菌など)を調べ、腎臓や尿路系疾患の診断に用います。	腎炎 尿路結石 膀胱炎 ネフローゼ症候群
脂質	総コレステロール	血液中の脂質で、HDLコレステロールとLDLコレステロールなどの総和を表しています。	脂質異常症 動脈硬化
	中性脂肪	体のエネルギーを貯蔵する役割がありますが、高すぎると動脈硬化などの原因になります。	脂質異常症 動脈硬化 肥満
	HDLコレステロール	善玉コレステロールのことで、血管に貯まったコレステロールを肝臓に運び、動脈硬化を予防する働きがあります。値が低いと動脈硬化を促進させます。	動脈硬化 肥満
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールと言われ、動脈硬化を進行させ脳梗塞や心筋梗塞などの原因になります。	脂質異常症 動脈硬化
糖代謝	血糖値	血液内の糖分濃度で、生命を維持するためのエネルギー源として大切な役割をしています。血糖値は一定の範囲内でなければならず、基準値以上では糖代謝異常や糖尿病の可能性があります。	糖尿病
	HbA1c	過去1～2か月間の平均的血糖値を反映しており、糖尿病の診断や糖尿病の治療に用います。	
肝機能	AST(GOT)	肝臓や心臓に多く含まれる酵素で、これらの臓器が障害を受けると高値になります。	肝疾患 心筋梗塞
	ALT(GPT)		
	γ-GTP	肝臓病を発見する手がかりになり、特にアルコール性肝障害で高値になります。	アルコール性肝障害 肥満
	コリンエステラーゼ	肝臓、膵臓、心臓などに多く存在しますが、肝臓で合成されるため主に肝機能の異常を反映します。	脂質異常症 肥満 脂肪肝
	総ビリルビン	この検査で黄疸の種類が分かり、肝機能検査の指標になります。	肝疾患 黄疸
	直接・間接ビリルビン		
	ALP	肝臓や胆管、骨、腸管などの臓器に障害があると高値になります。	肝疾患 骨疾患 甲状腺機能亢進症
	LDH	肝臓や心臓、腎臓、筋肉、赤血球などに含まれ、それらに障害があると高値になります。	肝疾患 心疾患 筋疾患 血液疾患
ZTT	肝炎や肝硬変などで炎症の強い場合に高値になります。	肝炎 肝硬変などの肝疾患 膠原病	
TTT			
膵臓	アミラーゼ	デンプンなどの糖質を分解する消化酵素です。唾液腺や膵臓から分泌され、それらに障害があると高値になります。	膵疾患 腸管疾患 耳下腺炎
腎機能	クレアチニン	筋肉の中でエネルギーとしてたんぱく質を利用した後の老廃物です。腎臓の機能が低下すると、尿中に排泄されずに血液中に増加します。	腎障害
	尿素窒素	体がたんぱく質を利用した後に出る老廃物で、通常は尿中に排泄されます。腎臓の機能が低下すると血液中に増加し、高値になります。	
	e-GFR	腎臓の機能がどれくらいあるかを示しており、機能が低下すると低値になります。	
尿酸	通常は尿中に排泄されますが、腎機能の低下や尿酸生成の促進により高値になります。	痛風	
血液	赤血球数	貧血、多血症など赤血球造血に異常のある疾患の手がかりになります。ヘモグロビンは酸素を全身に運搬する働きがあり、血液に占める赤血球の容積比率をヘマトクリットと言います。	低下：貧血 消化管出血 上昇：多血症 脱水
	ヘモグロビン		
ヘマトクリット			
一般	白血球数	体内に侵入した細菌や異物を除去する働きがあり、感染症や炎症の際に高値になります。	細菌感染 アレルギー性疾患 白血病
	血小板数	血液の凝固や止血の役割があり、減少すると血が止まりにくくなります。極端に増加すると、血栓ができやすくなり血管を塞いでしまいます。	再生不良性貧血 白血病 紫斑病 血小板機能障害
心電図検査	不整脈や狭心症、心筋梗塞など心臓の異常の有無を調べます。	心筋障害	
眼底検査	眼の奥(網膜など)を撮影します。眼の病気だけでなく、眼底の血管の状態から動脈硬化や糖尿病性変化なども発見できます。	動脈硬化 眼底出血	
胸部X線検査	写った画像の濃淡を観察し、肺や心臓に異常がないかを調べます。	肺がんを含む呼吸器疾患	
胃部X線検査	胃、十二指腸の異常の有無を調べます。	胃炎 胃十二指腸潰瘍 胃がん ポリープ	
便潜血検査	大腸、直腸、肛門などから出血があると陽性になります。痔の場合でも反応します。	大腸がん ポリープ 痔 潰瘍性大腸炎	
子宮検査	子宮頸部の細胞を採取して異常な細胞の有無を調べます。	子宮頸がん 子宮・膣の病気	
乳房検査	視触診、乳房X線(マンモグラフィ)、超音波などの検査により、乳房の異常の有無を調べます。	乳がん 乳腺症	

※2021年度より ALP、LDH の検査方法が国際臨床化学連合(IFCC)の基準測定操作法に変わります。

●肝炎ウイルス : 肝炎ウイルス検査により、過去の感染や現在の感染の有無を調べます。

HBs抗原・抗体	B型肝炎ウイルス	HCV抗体	C型肝炎ウイルス
----------	----------	-------	----------

●腫瘍マーカー検査を受診された方は、裏面の説明書をご覧ください。

◎ 健康診断は毎年受けましょう ◎

健康診断は、生活習慣病の予防や病気の早期発見のためには欠かせません。自分の健康状態について正しい知識を持ち、健康管理のために健康診断は毎年受けましょう。結果が手元に届いたら、前年と比較してみましょう。

異常や気になる症状がある場合は、放置せず医療機関を受診しましょう。

医療法人 恵生会